

令和6年度 第1回

防災・減災対策調査特別委員会

令和6年能登半島地震への災害対応

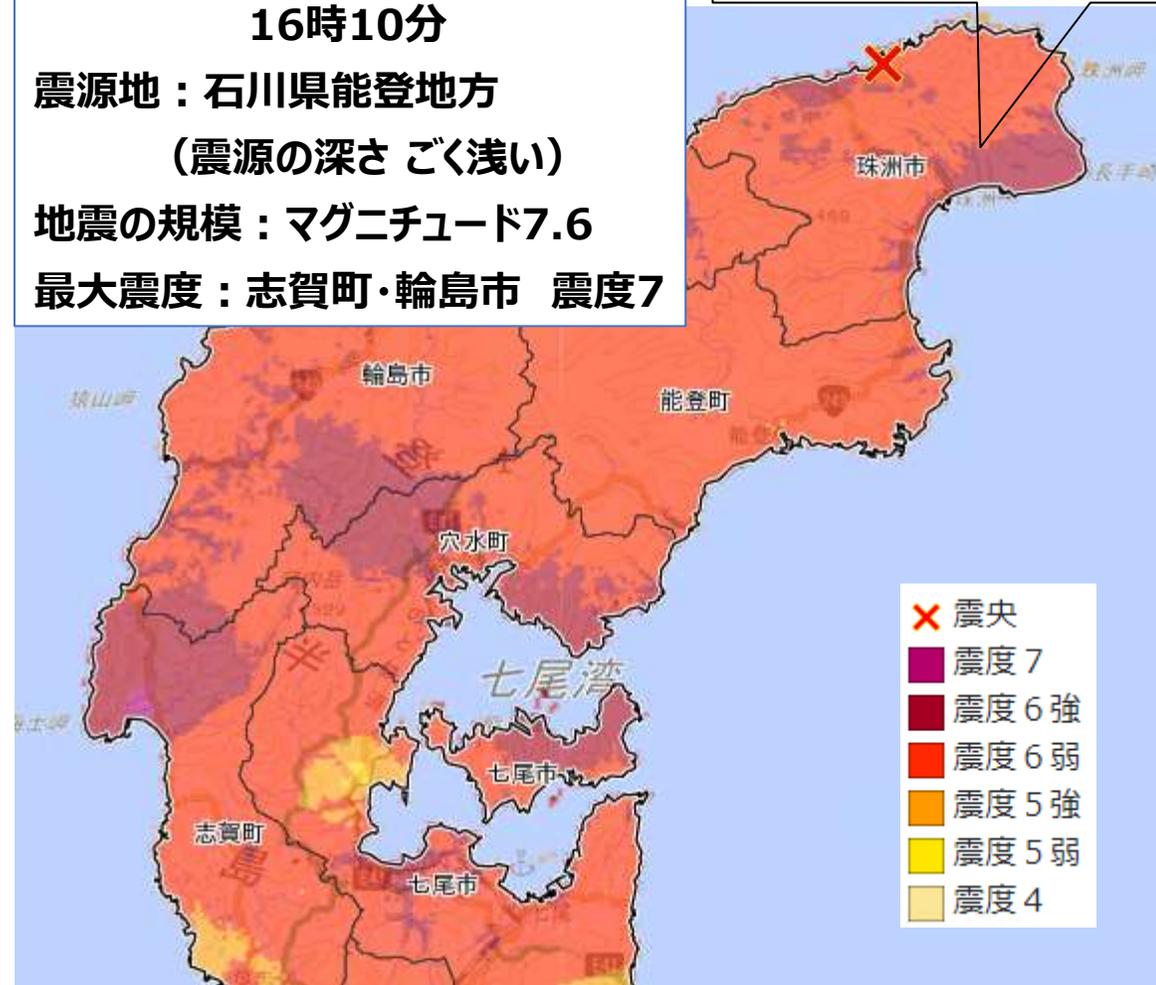
総合政策局（危機管理部）資料
令和6年9月26日

1 珠洲市の概要(千葉市との比較)

2023/7/31現在	珠洲市	千葉市
面積	247.2km ²	271.8km ²
地区	10地区	6区
人口	12,728人	978,422人
世帯数	5,873	485,190
高齢化率 (全国平均： 29.1%)	51.4%	26.3%

発生時刻：令和6年1月1日
16時10分
震源地：石川県能登地方
(震源の深さ ごく浅い)
地震の規模：マグニチュード7.6
最大震度：志賀町・輪島市 震度7

珠洲市役所周辺の被害状況
(1/24撮影動画)



【気象庁 推計震度分布】

2 珠洲市の被害状況

○ 人的被害（2024年4月30日現在）

死者 103人（うち災害関連死 6人）

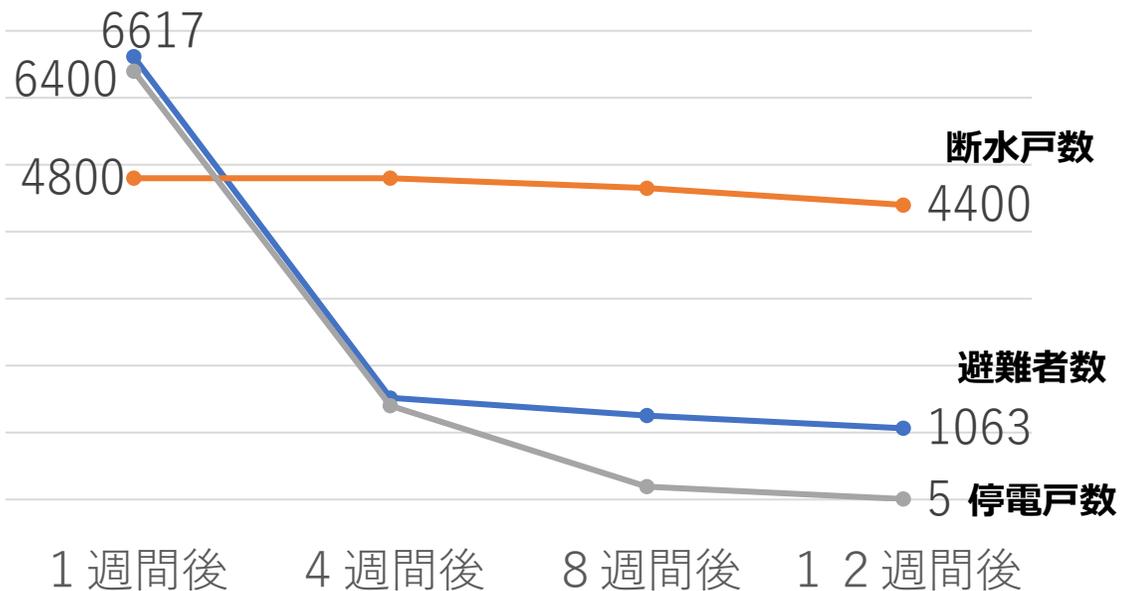
○ ライフライン被害

停電 2か月後にほぼ復旧

断水 ほぼ全域で断水(※)

※:5月31日をもって
早期復旧困難地区
(3地区、1,076戸)
を除き、概ね断水解消

断水・停電と避難者数の推移



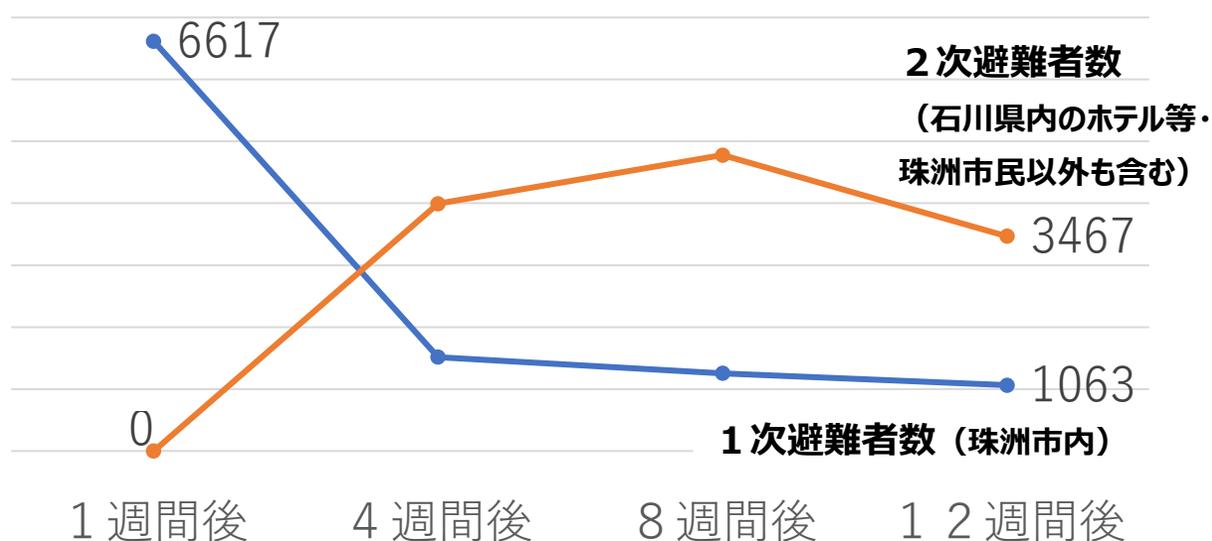
○ 建物被害（2024年4月30日現在）

合計 5,342棟（うち全壊 1,443棟）

○ 避難者（2024年1月7日時点）

最大 7,122人

避難者数の推移



3 千葉市からの派遣実績

業務	期間	派遣先	人数
罹災証明書	1/6～4/30	珠洲市	298
医療救護活動（DMAT）	1/12～17、1/21～24、 2/2～5、3/8～17	輪島市、穴水町、能登町	8
健康支援等（保健師）	1/14～25、2/11～22	金沢市、加賀市	12
廃棄物収集運搬	2/26～3/16	能登町、珠洲市等	21
被災建築物応急危険度判定	1/14～18	輪島市	4
応急仮設住宅建設	4/15～28	石川県	2
下水道被害状況調査	1/11～2/3、2/6～4/10	白山市、輪島市	48
生徒生活指導（教職員）	2/23～27	白山市	2
救急搬送等（緊急消防援助隊）	1/11～17	石川県	7
合計	1/6～4/30		402

4 派遣の流れ(罹災証明書)

1/1~1/2 情報連絡体制 (情報収集等)

1/3 危機管理部の管理職参集 (今後の応援派遣について協議)

1/4 珠洲市への派遣決定 (指定都市市長会による調整)

【指定都市市長会行動計画】 ※ 震度6弱以上の場合などに発動

被災地域	支援順位 1	支援順位 2
北海道・東北	北海道・東北	関東
関東	関東	北海道・東北
中部	中部	関西
関西	関西	中部
中国・四国	中国・四国	九州
九州	九州	中国・四国

1/5 千葉市の担当が罹災証明書交付業務に決定

1/6 第1団10人派遣

【派遣人数】 ※ 罹災証明書のみ

団	期間	各団の人数 (カッコ内は危機管理部)
第1団	1/6~1/13	10人 (4人)
第2団~第6団	1/12~2/16	20人 (4人)
第7団~第16団	2/14~3/31	15人 (2人~3人)
第17団~第22団	3/30~4/30	6人 (4人)
第23団 (物資回収)	4/28~4/30	3人 (3人)
合計	1/6~4/30	298人 (72人)

【珠洲市への主な応援状況】

支援内容	応援自治体
総括支援	浜松市・熊本市 (補佐)
避難所運営	福井県・千葉県
避難所巡回	兵庫県
被害認定調査	兵庫県、浜松市・千葉県・千葉市 他
罹災証明書交付	千葉市・松江市
物資輸送	浜松市・山梨県
広報	神戸市

5 派遣中の生活環境

○ 宿泊場所

・志賀町⇄珠洲市役所

(1/6～1/20) 4時間

・能登高校⇄珠洲市役所

(1/21～1/27) 40分

・のと海洋ふれあいセンター⇄珠洲市役所

(1/28～4/30) 30分



○ 食事

・宿泊施設に食料等が常備

・食料等は早期からドラッグストア等で購入可能



【自衛隊の炊出し】

○ 物資の確保

・職員用に送った物 (トラック協会が輸送)

飲料水・アルファ米・クラッカー・携帯トイレ・毛布・エアマットなど

・職員個人に持たせた物

パソコン・衛星電話・毛布カバーなど

・現地調達した物 (公費)

飲料水・プリンターなど



○ 珠洲市役所市民課 段ボール、エアマットなど



○ のと海洋ふれあいセンター テント、簡易ベッドなど

6 罹災証明書業務の流れ

受付→調査→交付 (交付結果(判定)に不服の場合は2次調査)

○ 珠洲市の主な方針

- ・ 全棟（非住家を含む）調査を実施
- ・ 建物の場所や連絡先確認のため窓口受付
- ・ 建物特定のため窓口交付（2次以降郵送）
- ・ 調査が終了した地区ごとに順次交付を開始

【罹災証明書による主な被災者支援制度】

支援制度	全壊	大規模半壊	中規模半壊	半壊	準半壊	一部損壊
被災者再建支援金	150～300万円	100～250万円	25～100万円		—	—
石川県義援金	20万円	15万円	10万円	5万円	—	—
珠洲市義援金	50万円	35万円	25万円	10万円	5万円	3万円
住宅の応急修理	70.6万円				34.3万円	—
応急仮設住宅	○	△（解体を行うなど）			—	—
家屋等の解体・撤去	○				—	—
市民税の減免	○			—	—	—

7 業務の実施状況

受付(1/9~1/27)



- 1/7,8で受付準備
- 初日(1/9)は市民約300人が来所(待ち時間は最大3時間)
- 二週間程度は混雑

調査(1/13~1/21)



- 1か月で1次調査終了を目指し
15班30人体制編成
- 千葉市は2班4人×2交代
- 千葉市は罹災証明書交付に専念
するため1/21で業務終了

交付(1/27~4/30)

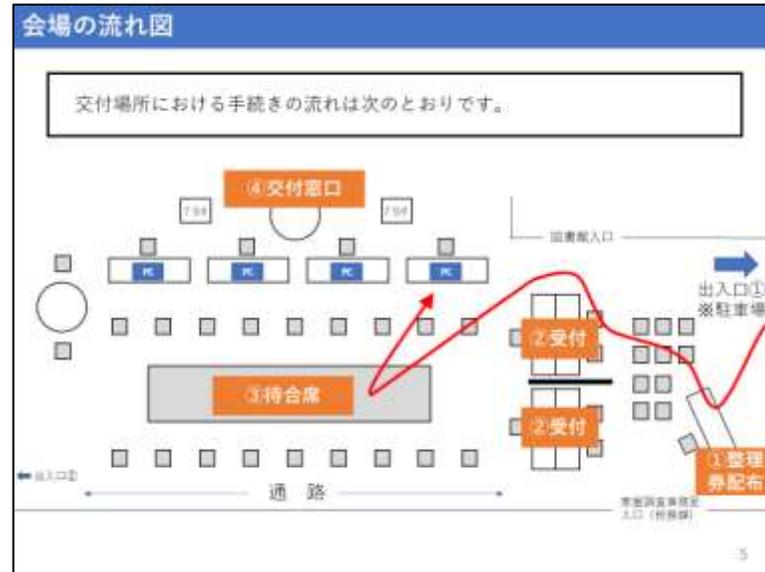
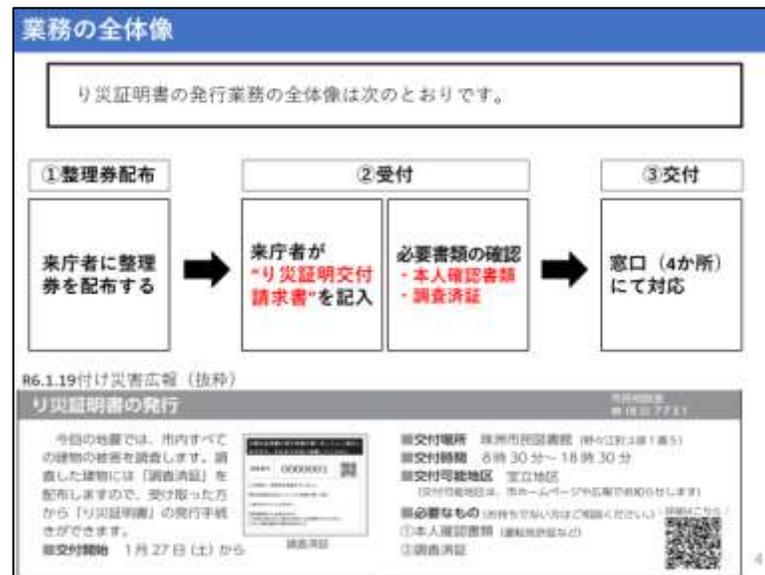


- 初日(1/27)は約80人に制限
(午前中で受付終了)
- 10日後には200人以上への交付
が可能(交付端末増設、マニュアル
の継承による作業の習熟)
- 1か月後には2次調査の業務へ
シフト(受付・発行・架電・郵送)

8 交付に向けた準備(1/21~1/26)



【千葉市が作成したマニュアルの一部】



- 交付要領 (マニュアル) 作成
- 派遣職員への説明会
- 会場設営
- 操作研修会 (予行練習)

9 他の機関との調整業務



- **LO（連絡員）執務室**
 - ・スペース的に全ての機関が入りきらない
 - ・本市は常駐せず



- **災害対策本部会議**
 - ・毎日1回 → 週1～3回開催
 - ・関係機関は傍聴



- **関係機関の調整会議**
 - ・毎日2回 → 毎日1回 → 週1～3回開催
 - ・関係機関の活動報告
 - ・市長等も出席

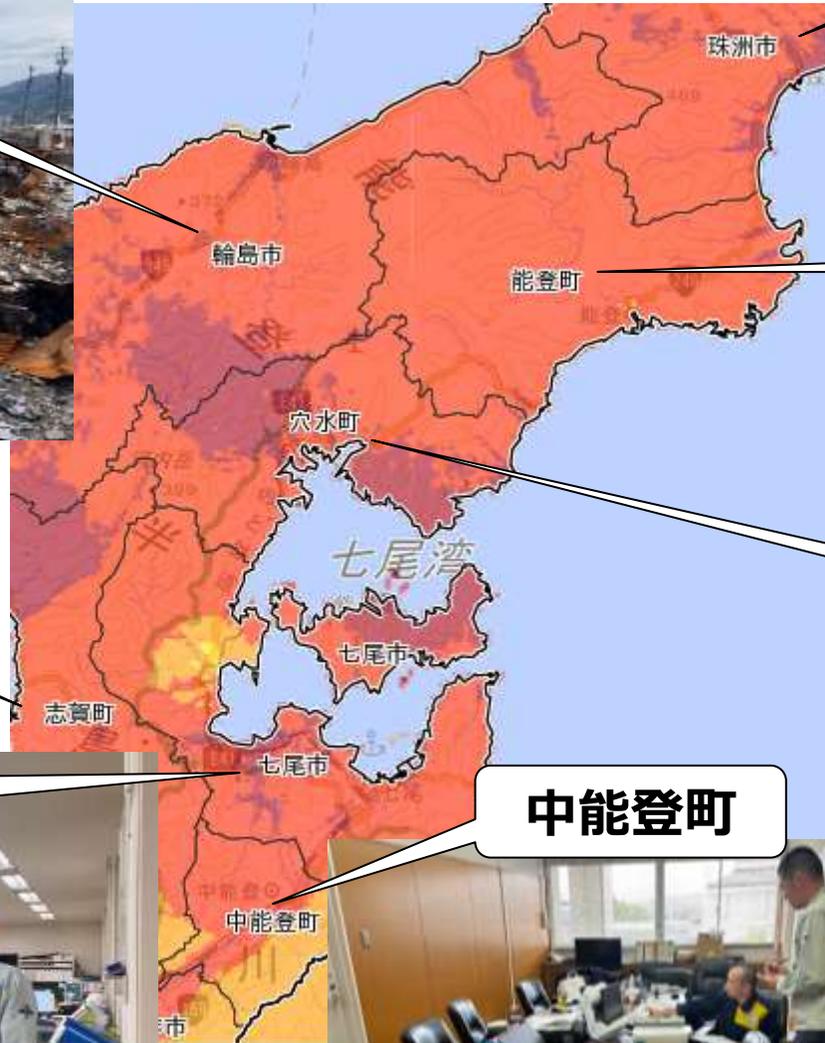
10 業務の引継ぎ

【第3団→第4団 引継ぎ日程の例】

	1/27			1/28		
	15:00	～20:00	20:30～7:00	7:30	～12:00	12:00
第3団 (20名)	業務	業務の 引継ぎ	市役所・図書館宿泊		業務の 引継ぎ	帰任
第4団 (20名)	図書館着		のと海洋センター宿泊	図書館着		業務

- ・ 事前に業務マニュアルを配布
- ・ 朝（窓口交付業務等）と夕方（交付件数集計等）の2回引継ぎ
- ・ 引継ぎ時には2倍の宿泊人数となるため、宿泊場所の確保が必要

11 被災地の視察(4/10~4/28)



12 応援派遣で心掛けたこと

珠洲市職員も被災者 (寄り添った対応)

具体的な提案が必要 (何かありますか?ではなく)

決定権は珠洲市にある (あくまで助言する立場)

珠洲市への引継ぎを意識 (計画的な出口戦略)

派遣職員の管理 (ローテーション・健康第一)

後方支援が重要 (毎日現地とWEB会議)



全壊した珠洲市職員の自宅



13 災害派遣の経験を蓄積し教訓を継承

【スケジュール（案）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
派遣終了		庁内報告会の開催		施策への反映（予算化） 検討		計画・マニュアルへの反映 検討		報告書の作成・公表		計画・マニュアル修正案作成	
	職員アンケート										

14 現時点での課題と対応の方向性(1)

① 避難所の長期化



避難者・運営者がともに疲弊



避難所運営体制の強化

② 要配慮者の避難対策



介護士等の支援者不足



介護関係事業者との連携強化

③ 断水対策(生活用水)



断水の長期化に加え、下水道の復旧に時間を要し、トイレ、入浴、洗濯など市民生活に影響



循環型シャワー等の自治体間相互提供の検討

14 現時点での課題と対応の方向性(2)

④ 断水対策(トイレ)

⑤ 罹災証明業務の体制整備

⑥ 女性職員の派遣



トイレカーの例

断水の長期化に加え、下水道の復旧に時間を要し、トイレ、入浴、洗濯など市民生活に影響



「トイレカー等の導入」や「自治体間相互提供」などの検討



膨大な量の住家被害認定調査



住家被害認定調査システムの導入を含めた体制整備の検討



発災直後は宿泊場所の都合等により女性職員を派遣できず



宿泊用テントを事前に配備するなど、女性職員の早期派遣を想定したスキームの検討

15 危機管理部としての所感

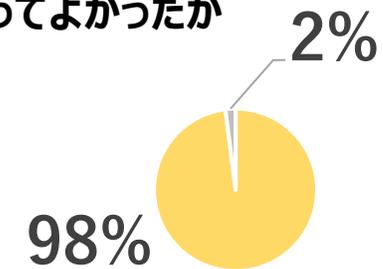
- ◎ 防災にはゴールがない
→ 経験を活かして改善策の検討を継続
- ◎ 派遣職員の防災意識の高さ
→ 千葉市が被災しても職員が一丸となって対応
- ◎ 応援側にとっても有意義
→ 職員同士のつながりや業務を越えた貴重な体験
- ◎ 派遣に行かない職員の貢献
→ 全職員がそれぞれの役割を果たすことが重要
- ◎ 職員も被災者となることの再認識
→ BCPの見直しと職員の心構えの啓発

【派遣職員へのアンケート結果（215人回答）】

Q 千葉市で発災した場合に検討しておくべきこと

- ① 罹災証明書交付のシステム・体制 29人
- ② 職員の被災を想定したBCP 25人
- ③ 他自体との連携・応援受け入れ体制 24人
- ④ 断水対策（トイレ・洗濯など） 15人

Q 派遣に行ってよかったか



■ よかったと思う ■ よかったと思わない

Q また派遣に行きたいか



■ 行きたいと思う ■ 行きたいと思わない